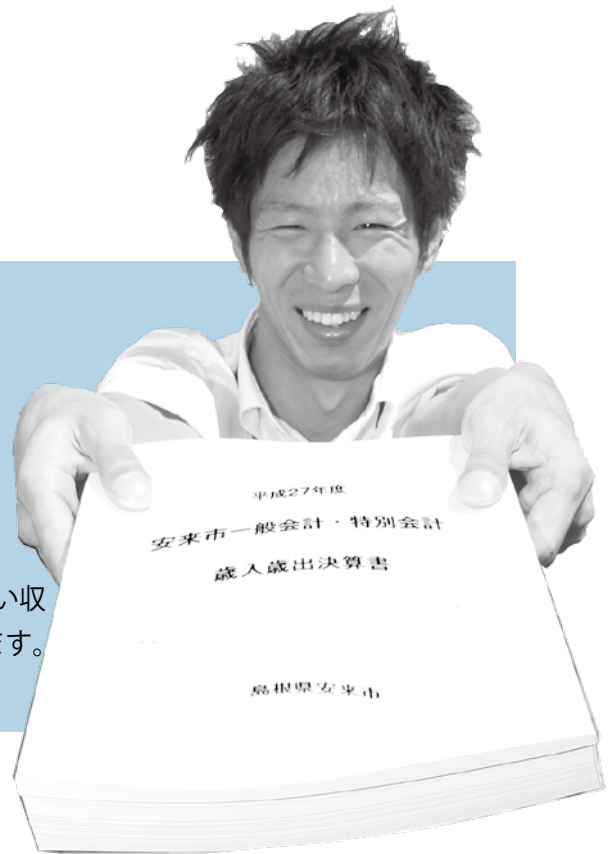


平成27年度

決算報告

市政は皆さんの大切な税金をもとに運営されています。どれくらい収入があって、どのような目的に使われたか、その概要をお知らせします。

問い合わせ 財政課Tel 23-3025

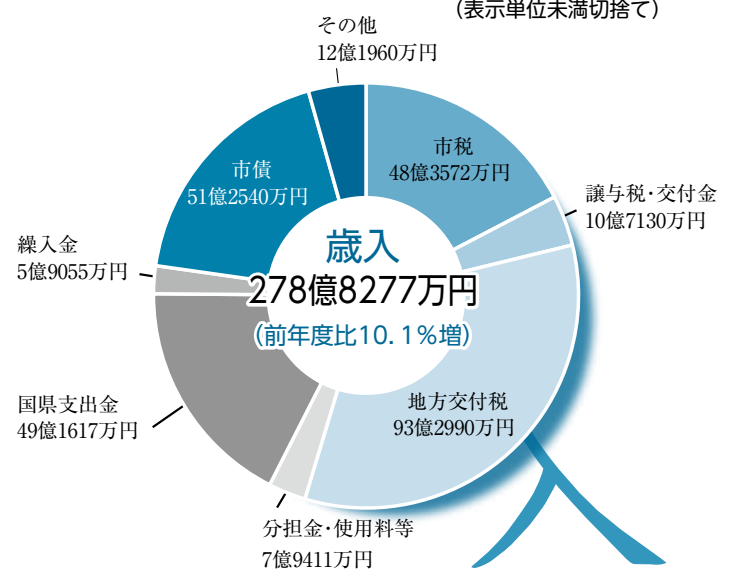
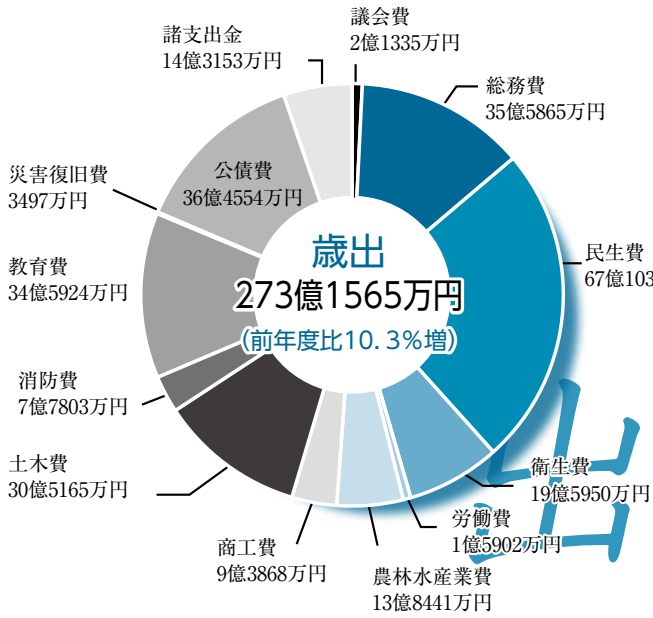


一般会計

平成27年度決算がまとまり、9月1日開催の定例議会に提出しました。

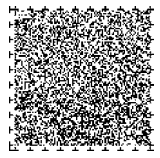
一般会計の決算額は、歳入総額278億8277万円、歳出総額273億1565万円、実質収支は5億684万円で、黒字となりました。今後も自主財源の確保に努め、一層の行財政改革を進めます。また、限られた財源を有効に活用するなど、中期財政計画に沿って財政健全化を進めていきます。

(表示単位未満切捨て)



■歳出総額は前年度比10.3%の増
主なものとして、土木費が中海ふれあい公園整備事業の着工等により51.8% (10億4154万円) 増、消防費が消防庁舎建設事業の完了により66.4% (15億3575万円) 減、教育費が給食センター建設事業により31.1% (8億1943万円) 増となりました。

■歳入総額は前年度比10.1%の増
市税は1億2903万円の減、地方消費税交付金は消費税率改定により3億662万円の増、国庫支出金はプレミアム商品券事業などにより2億385万円の増、県支出金は中海ふれあい公園整備交付金等により9億827万円の増、繰入金は庁舎等整備基金などの基金取り崩しにより1億235万円の増、地方債も事業増加により9億5610万円の増となりました。





実施した重点事業の一部を紹介します

27年度はこんな事業にお金を使いました

その他の事業

- 子育てママ応援事業 233万円
- 定住サポートセンター事業 723万円
- 農山村漁村活性化プロジェクト支援交付金事業 2186万円
- 中海ふれあい公園整備事業 9億9459万円
- 道路・交通ネットワーク整備事業 5億8623万円
- 社会保障・税番号制度システム整備事業 7428万円
- 児童クラブ建設（南小・母里小） 4659万円
- 防犯対策事業 848万円
- 地球温暖化対策事業 1113万円
- 河川水質事業 173万円
- 安来庁舎建設事業 7億9837万円
- 総合文化ホール建設事業 4億7309万円
- 史跡富田城整備事業 1億1137万円

小中学校エアコン整備

4369万円



市内の小中学校の普通教室にエアコンを設置し、教育環境の改善に努めました。

乳幼児医療費助成

1億2126万円



小学3年生までの医療費助成を小学6年生までに拡充し、保護者の経済的負担軽減を図りました。

3世代世帯定住促進

2400万円



3世代同居・近居の世帯を対象に、住宅の新築・取得・増改築などを行った人に対し補助を行いました。

バス購入・停留所整備

1128万円



小型車両一台を購入し、田頼町・伯太町赤屋に停留所を設置しました。

給食センター建設

11億6503万円



「安全で安心な給食」を安定的に供給するため、給食センターを建設。平成28年4月から供用を開始しています。

林業活性化

1200万円



市内の森林資源を有効活用するため、高性能林業機械及び木材の搬出経費の補助を行いました。

プレミアム付き商品券

9103万円



地域経済の好循環を創出するため、国の交付金を利用して20%のプレミアムがついた商品券を販売しました。

移動通信用鉄塔整備

1億1358万円



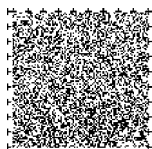
国の補助制度を活用し、伯太町西母里・上小竹、広瀬町富田・西谷の携帯電話不感地域に鉄塔を整備しました。

木戸川東線改良工事

5024万円



木戸川沿いを防災に対応した構造に改築。また、堤防沿い道路の幅員を拡張し、対面交通が可能な道路にしました。



特別会計と公営企業会計の決算

市の会計には、一般会計のほか、「特別会計」と「公営企業会計」があります。いずれも収支状況を明確にするため、一般会計とは別に会計処理を行っています。

特別会計

■国民健康保険

加入者が納める国保税や国・県の補助金などを財源に、医療給付や保健事業などを実施しました。被保険者数 9047人（前年度より434人減）



■後期高齢者医療

後期高齢者医療保険料や国・市の負担金を財源に、医療給付事業を実施しました。被保険者数 7597人（前年度より57人増）



■介護保険

介護保険料や国・県からの負担金などを財源に、介護サービス給付や地域支援事業などを実施しました。



●平成27年度歳入歳出決算額および対前年度比較表（単位：千円）

会計名	歳入（収入）		歳出（支出）		
	平成27年度	対前年度増減	平成27年度	対前年度増減	
特別会計	国民健康保険	5,336,355	567,691	5,331,611	566,782
	後期高齢者医療	1,009,654	△28,463	1,000,112	△29,716
	介護保険	4,684,529	231,708	4,513,243	157,058
	電気	269,087	184,040	264,714	181,555
	下水道	2,838,307	80,287	2,837,006	82,679
	簡易水道	895,153	142,128	895,055	162,130
公営企業会計	水道	706,247	△31,488	658,623	10,134
	安来市立病院	2,917,606	△46,844	3,005,378	△147,432

第一号被保険者数(65歳以上) 13831人(前年度より1119人増)

要介護認定者数 2949人(前年度より47人増)

電気

市が運営する水力発電所(布部・伯太)事業。電気事業債などを財源に伯太発電所の施設の大幅な改修などを行いました。



簡易水道

簡易水道とは、使用する人の規模が100人から5千人までの



公営企業会計

水道

水道料金を主な財源として、水質検査、水道施設、設備の維持管理などを実施しました。また、1月の寒波で被害を受けた人へ特別減免も実施しました。



水道のことで、国の補助金や水道料金を財源に水質検査や施設維持管理、簡易水道施設の統合などを実施しました。

下水道

下水道使用料や国の交付金などを財源に、汚水処理施設の整備・維持管理などを実施しました。



安来市立病院

医業収益を主な財源として、救急医療や巡回診療など地域医療の要として病院運営を実施しました。



診療科目 14科
 延べ入院患者数 4万8726人(一日平均133.1人)
 延べ外来患者数 6万6445人(一日平均273.4人)

27年度も健全でした

安来市の 財政状況



安来市は全ての指標で基準値をクリアしています

地方自治体は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、自治体の財政健全化度を判断する指標が設けられています。平成27年度の指標はすべて基準内です。

■指標が基準値を超えると？

- ・早期健全化基準を超えた場合 財政健全化計画の策定が義務付けられ、自主的な改善努力での財政健全化が求められます。
- ・財政再生基準を超えた場合 財政再生計画の策定が義務付けられ、国等の関与により確実な再生が求められます。

健全化を判断する5つの指標

赤字はどのくらいなの？

① 実質赤字比率：…一般会計の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示す指標。

▼黒字決算となっており、赤字額は発生していません。

② 連結実質赤字比率：…一般会計と8つの特別会計を合算して赤字の程度を指標化し、運営の深刻度を示す指標。

▼連結決算は黒字であり、赤字額は発生していません。

借金の返済はどのくらいなの？

③ 実質公債費比率：…年間の公債費（借金の返済）が財政規模に占める割合。

▼27年度は15・0パーセントとなり、前年度より0・1ポイント改善しました。

将来の負担はどのくらいなの？

④ 将来負担比率：地方公共団体の借入金（地方債）や将来支弁担すべき実質的な負債の程度を指標化したもの。

▼27年度は106・6パーセントとなり前年度より6・4ポイント改善しました。

公営企業の資金不足はどのくらいなの？

⑤ 資金不足比率：…公営企業会計の資金不足を公営企業の料金収入等の規模と比較した指標。

決算における資金不足比率（単位：％）

項目	27年度	経営健全化基準
水道事業	—	20.0
病院事業	5.2	
電気事業	—	
簡易水道事業	—	
下水道事業	—	

※黒字の会計は「—」表示しています。

▼公営事業会計の5会計のうち、病院事業会計において1億2690万円の資金不足が発生しました。これにより病院事業会計の資金不足比率は5・2％となりましたが、これは経営健全化基準（20％）内となっています。

平成27年度決算における健全化判断比率（単位：％）

項目	安来市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	12.81	20.00
連結実質赤字比率	—	17.81	30.00
実質公債費比率	15.0	25.0	35.0
将来負担比率	106.6	350.0	—

※実質赤字比率、連結実質赤字比率はともに黒字のため「—」表示にしています。

